

# 広報 やまの

No.139

2024.12.25

山野地域づくり協議会  
南砺市飛騨屋20番地  
TEL 0763-82-4510



## 一年を振りかえって

山野地域づくり協議会長

高田 実



地域づくり協議会としては、コロナ禍が明け  
て二年目の今年でようやくすべての行事が滞り  
なく終われるのではと思っています。

また、今年は元旦に起きた能登半島地震で南  
砺市でも震度5弱、山野でも震度4の揺れに襲われました。交流  
センターに避難所を開設しましたが、一人の利用者もなく安堵し  
ました。しかし、日頃の防災活動の重要性を認識させられたこと  
でした。いまだに避難生活や家に帰れず不自由な生活を強いられ  
ておられる方々に心よりお見舞いを申し上げます。

さて地域づくり協議会という住民自治制度が南砺市全域でス  
タートして六年が経ようとしています。まだまだ旧来の制度の  
なごりが取れないでいるのが現状かと思えます。

しかし、山野としては、発足前の皆さんからいただいたアンケ  
ートに基づき老・壮・青で話しあって決めた①交流センターを誰で  
も集える地域の拠点にすること、②地域の特産品を使った地域おこ  
し、③移動手段のない方が出歩ける送迎制度とまだまだ不十分です  
が、地道な取組として継続してまいります。

また、井波地域の四協議会と井波中学校とで「井波中学校と連  
携する会」を作って話し合いの場を持っています。今回井波中  
学校の生徒用玄関に「地域づくり協議会からのお知らせ（仮称）」  
の掲示板が設置されることになりました。井波地域の動きや行事  
案内をすることで半分おとなの中学生達に、地域との関わりや興  
味を持ってもらえるのではないかと期待しております。

終わりになりますが、新しい年が地域住民の皆様の健康で幸せ  
な一年になりますようお祈り申し上げます。



### 三世代交流盆踊り大会

#### 三世代交流盆踊り大会に参加して

盆踊り大会実行委員長 大浦 均



昨年は台風接近のため中止となった盆踊り大会でしたが、今年は5年ぶりに以前のよう  
に8月15日に開催することができました。

久々の開催で、会場設営に手間取るところもありましたが、実行委員会の皆さんのおかげで何とか準備することができました。開始前には雨模様になり天候が心配される中、途中で小雨の降るあいにくの天気でしたが、何とか屋外で開催しました。まずは、保育園児たちが中心となって「にんにん忍たま音頭」を踊ってくれました。その後、「炭坑節」「木彫り音頭」「越中おわら節」、最後にもう一度、「木彫り音頭」を踊って終りとなりました。踊りの終了後にはお楽しみ抽選会があり大いに盛り上がりました。これからさらに、この盆踊り大会が山野地区の皆様楽しんでもらえる夏の行事になればいいと思います。

最後に、参加いただきました皆様、準備や運営、踊りや最後の片付けまでお世話になりました実行委員の皆様へ感謝申し上げます。本当にありがとうございます。



### 三世代交流ふれあい祭り

#### 深まった地域の心の絆

ふれあい祭り実行委員会副委員長 河原 秀 樹

穏やかな天候の中、素敵な笑顔や楽しい会話に多く触れることのできた一日となりました。

活動発表では、日ごろの練習成果を十分に発揮され、会場が熱気に包まれるとともに、展示会場においては、見応えのある作品が数多く飾られ、目を楽しませてくれました。

また、センター前でのバザーは出足もよく、活気にあふれ、賑わいをみせていました。

さらに、午後からの敬老会式典では、今年めでたく米寿を迎えられた方々に、南砺市からのお祝い状が手渡され、微笑ましい時間を皆で共有することができました。

結びに、今回のふれあい祭りで、山野地域住民の心の絆がより一層深まったと確信するものです。ご来場の皆様、ご協力賜った方々に感謝いたします。ありがとうございました。

#### 高齢者のみなさんに感謝

健康福祉部長 川上 久 志



多年にわたり、社会に尽力されてきた高齢者の長寿を祝福し、地域の人々の高齢者福祉に対する理解と敬老精神の高揚を促すとともに、高齢者自身の生活向上

に務める意欲の増進を図ることを趣旨とし、令和6年度の敬老会が、ふれあい祭りの一環として、交流センタースポーツ室において行われました。  
今年、山野地域では13名の方々がめでたく米寿を迎えられました。

#### 米寿の方々

- 松井キヨイ(坪野) 齋藤 博(飛騨屋)
- 水野美津子(坪野) 直江 裕二(野能原)
- 山本とし子(坪野) 河原 朝子(安室)
- 山田登美子(山斐) 佐竹 昌子(安室)
- 岩崎 英子(岩屋) 高倉 敦子(清水明)
- 榎木 玲子(岩屋) 川原 節子(専勝寺)
- 太田 行男(岩屋)

式典では、南砺市地域包括医療ケア部 松田哲也部長より、めでたく米寿を迎えられた方々お一人お一人に南砺市からお祝い状が手渡されました。式典終了後記念撮影を行いました。  
今後とも健やかに過ごされますようお祈り申し上げます。



地域イベントの必要性

ふれあい祭り実行委員会

副委員長 細川 忠 克



山野ふれあい祭りの  
スタッフとして参加さ  
せて頂き、多くの来場

者が訪れ、本当に有難うございました。当日は好天とはいえませんが、幸いにも雨も降らず、まずまずの天気でした。関係者の皆さん本当にご苦勞様でした。

地域のイベントは、この地区を盛り上げる為に大変必要です。何故なら久々に見る人達『あの方元氣なんだ』良かった！ また、幼ない子供達を見てほっこりする場面も有り嬉しく思えました。地区のイベントは人と人のつながりを確認する意味でも大変重要だと



思います。来年も、もっともっと楽しんで企画の祭りを期待します。

ふれあい祭りを終えて思う

墨絵部会 往 蔵 桂 子

私達に与えられた展示会場は、なんと！ 会議室。昨年同様に広い！！ さて、どうする。

一人、二、三点以上の作品を集めないと寂しい、賑やかにしてふれあい祭りを盛り上げたい。でも私達会員が少ない!! そこで地元にはもつと知らない作家さんがいらつしやる、もつと多くの人に出品してほしい。今回は川原正彦さんに御協力を頂き、なんとか会場を埋める事が出来ました。生花とのコラボも評判が良く、沢山の人が見て頂けた事嬉しく思っています。

次回に向けて、少しでも多くの人に見て頂きたいとの思いで、岸先生(南画院・同人)のご指導の下、日々頑張つて描いております。次回も楽しみに見て下さいね。

オカリナの音色に魅せられて

オカリナ同好会 英 松 美

ふれあい祭りの活動発表にオカリナ同好会のメンバーとして参加しました。緊張しながらステージに上ったものの、温かい来場者の拍手と笑顔に包まれ、演奏を終える頃には、達成感でいっぱいでした。最初は、指使いもままならなかった「少年時代」の曲も練習を重ねるうちに少しずつ上達してゆくのを実感できました。オカリナの音色に癒され、同好会の

メンバーに助けられながら毎週の練習が楽しみです。





立山登山に参加して

6年 高 田 真 衣



私は2回目の立山登山参加です。昨年は頂上の雄山神社へ行ったので、今年には浄土山コースにしました。みんな浄土山を目指し、途中で運よくライチョウの親子を見ることができてラッキーでした。これはがんばって登っていたからだと思います。

今回初めて知ったことは高山植物のことです。歩きながらチングルマやヨツバシオガマを見ついたり、ミヤマリンドウとタテヤマリンドウの違いなどいろいろ教えてもらったりしました。自分の周りでは見たことのない植物がたくさんありました。

最初は今年の参加を迷っていましたが、参加してよかったです。自分の知らなかったことを知ることができ、良いことが起きる立山登山、楽しかったです。



チャレンジスポーツ☆やまの今年も開催

スポーツ推進委員長

榎 木 勝 規

これまで地区対抗、世代別で行われてきた山野体育祭の再開について議論が続けられてきました。昨年初めて、自由参加を基本とする新しい形態で開催したのが『チャレンジスポーツ☆やまの』です。時間内に自由にきて、輪投げやフリスビー、フリースロー、卓球、バドミントンなど、普段から交流センターで使用できる道具で記録に挑戦します。

2回目となる今回は、初参加の方も加わり、昨年と同程度の参加人数で賑わいました。今後、参加者どうしの交流の場を工夫したり、地域や気の合う仲間とチームをつくって参加するチーム部門を設けるなど、皆さんの要望をいただきながら新たな恒例行事として浸透していくことを願っています。



今回のイベントはスポーツ推進委員として参加しました。イベント当日は他の推進委員の方々と連携し、運営を行いつつ競技に参加しました。私は子供の頃から身体を動かす事が好きで、運動を続けている事もあり、各競技で上位に入り、見事総合1位となる事ができました。今回のイベントを通して「身体を動かすのは楽しい」と感じました。参加して頂いた方々からも笑顔が溢れて、見ているこちらからも楽しくなります。もっと参加者が増えるのもっと楽しいイベントになると思っているので、多くの方に参加して頂きたいと思っています。

チャレンジスポーツ☆やまのに参加して

崎 田 健 史



里芋掘り取り体験会  
を開催して

地域活性化部長 松川 毅



大人の背丈以上に成長した里芋

山野の里芋の作付拡大と担い手を育成し、未来につなぐ「里芋で元気なまちづくり」として「やまのいもっこ倶楽部」を発足して5年目になりました。多くの方に山野の里芋の美味しさを知って欲しいとの思いでスタートした「掘り取り体験会」は3年目に初めての試みとして10月19日から27日まで連続9日間実施し、結果392組約800名と昨年倍増の来場を頂きました。来場の方は『山野産里芋の美味しさを知り毎年来ています。今年も楽しみにしていました。』又『知人から連絡頂き家族一緒に体験出来る機会が嬉しい』等掘り取り体験をされる家族はその親戚・知人へ紹介、リピートの方も着実に増えてきました。



力・支援を待っています。今後とも多くの山野地区民の参加・協力等』で知ったという方が更に増え地域外、しかも遠方からの来場につながっていることです。そして今年も山野保育園の園児達と合同の「イチゴ狩り」・「さつまいもの植付から収穫」と「感謝の集い」も続けて頂いています。このような活動を通じて山野地区の未来に向けて活性化への一助にしたいとの思いです。



実感した事は、今年には井波地域以外に告知しなかったのですが、知人の連絡・紹介・口コミ等に加え、『SNS・メル

支え合い活動から“笑顔で暮らすことができる地域づくり”を

ケアネット委員会委員長 長谷川 光 徳



身近な暮らしの中で生活のちょっとした困りごとをお手伝いする支え合い活動、これがケアネット活動です。少子高齢化がすすむいま、高齢者のみ世帯や65歳以上の一人暮らし世帯数が増えていく状況にあります。南砺市、当山野地区もほぼ同じ状況です。このような中で、ケアネット活動はとても意味のある活動といえます。

さて、山野地区では、山野地域づくり協議会に位置づけられるケアネット委員会がこの活動を推進しています。年間3〜4回程度の会議を開催し、ブロック別にケアネットリーダー（ほぼ町内会長が担う）、地域福祉推進員相互で討議をし、町内担当の民生委員児童委員も加わって情報の共有（対象者の様子の変化など）や活動の連携等について討議したり、講師を迎えて研修を行ったりして、見聞を広め活動の充実を図っています。現在は、一人暮らしの高齢者等20名余りの方を

対象者として、該当する各町内においてリーダーを中心とした数人によるチームを構成し、対象者へのお手伝いの支援活動が続けられています。今後の人口推移からは、支えられる側の人が増え、支える側の人手不足が予想されます。従って、なおのこと今のケアネット活動が土台となり、互いのつながりを大切にした無理のない支え合い活動が継続され、“笑顔で暮らすことができる地域づくり”につながることを願うものです。





# 三世代交流事業

ふれあい委員長 高田博之

12月1日(日)肌寒い雨が降るなか、子どもたち約70名、大人約50名が参加して、子ども、親世代、祖父母世代の三世代が一緒に、各種団体の協力のもと、餅つきやゲーム等を通して交流事業を行いました。

子どもたちは、子ども用のミニ杵を使って、家庭では経験することが出来なくなった「もちつき体験」をして満足した表情になりました。大人は餅つき機を使わず、米をつぶすことに悪戦苦闘しながら15臼をつきあげました。未経験の方が多く、体力不足もあり、また、手返しの作業も経験者が少なく、今後の課題となりました。

スポーツ室では、子どもたちがインストラクターの指導の下、親子でミニゲームを楽しみました。会食では、美味しい豚汁とつきたての餅の味に舌鼓を打ちながら、三世代が協力し合って「遊ぶ、話す、作る、食べる」を通して同じ時間を共有する機会は貴重であると実感しました。



## 三世代でもちつき

山野母親クラブ 山本 有紀子

山の上に雪が降る寒い日でしたが、たくさん子ども達が参加してくれました。子ども用の杵が今年は準備され皆んな緊張しながらも楽しそうにっていました。

もち加工では、あんこ、きなこ、ゴマをつけたり、パック詰めや机に並べるまで、たくさんお手伝いをしてくれました。中々このような体験はできないので、このような機会を大切に出来たらと思います。

前日の準備を含め多くの方にご協力いただきましたことに感謝いたします。

## クリスマス会



山野児童クラブ育成連合会会長 澤田直樹

12月1日午後より、山野交流センターでクリスマス会を開催しました。各地域からたくさん子どもたちが集まり、ビンゴ大会を行いました。子どもたちは真剣勝負で、ビンゴになった時のとても嬉しそうな顔が印象的でした。また、他のお友達が先にビンゴになったときでも自然と拍手が起き、自分のことのように喜んでる姿が微笑ましく感じられるクリスマス会となりました。

役員の方にはたくさんさんの準備や運営にご協力いただき誠にありがとうございました。児童クラブの趣旨である子どもたちに喜んでもらえる活動に繋がったと思います。この場をお借りしてお礼申し上げます。



山野の魅力紹介

4

一般社団法人はんどくさん  
共生型サービス モモさん

笑顔がたえない  
居場所づくり



山斐公民館前の民家の一角に今年の7月、共生型サービス「モモさん」が開業した。介護が必要なお年寄りや障がいを持った方のケアサポートに加え、小さなお子さんを持った家族の子どものお泊り預かりをする定員10名のこじんまりとした共生型サービスである。

代表理事の小西恵子さんは、これまで知的障がい者施設での勤務や滋賀県大萩茗荷村での子どもたちとの共同生活を通して、本来人間が持っている温かい心をよみがえらせる仕事に従事された。南砺市に戻ってからは、社会福祉に貢献したいとの思いを強くされ、夫の勉さんの協力のもと現位置で自宅を改修し、平成21年に高齢者と障がい児のケアをするNPO法人富山型サービス「モモの」ところにいつてごらん」を開業された。この名称は、ドイツの作家ミヒヤエル・エンデの作品の中に出てくる、不思議



議な少女モモのところへ町の人たちが話を聞いてもらいに行くこと、幸福な気持ちになるという物語に由来する。このサービスは、9年続けたが地元の人に愛されながらも、人手不足のため平成29年に休業せざるを得なかった。その後も里親登録を続け、恵まれない子どもたちの居場所づくりに携わってきた。

しかし、小西さんの心の中には常に地域貢献を続けられなかった負い目があり、今回その思いのなか、夫の勉さんとともに一般社団法人はんどくさんを設立し、共生型サービス「モモさん」を開業した。お釈迦様の愛弟子で周梨槃特「しゅりはんどくさん」は愚鈍といわれながらも、一生地道に一つのことには打ち込んだといわれ、彼の一生に自らを重ねているように感じられる。

この施設は、小さいけれど、地域のお年寄りや障がい者が落ち着いて、穏やかに過ごしていただけていることがうれしいと話される。現在スタッフは小西さんのほか4人、みんな楽しく笑顔がたえない場所であり、食事の準備など利用者ができることは自ら進んで手伝ってくれる。

大規模施設と違い、住み慣れた地域で、ほぼマンツーマンで行き届いたサービスが受けられるのは、小規模施設だからこそ実現できるものなのかもしれない。



小西さんは、今後この場所がこれまで携わってきた子どもたちも含め、笑顔がたえないみんなの居場所になればと願われている。

編集後記

年の瀬を迎え、みなさんにはあわただしい毎日をお過ごしのことと思います。広報やまの139号をお届けします。

今年は、5年ぶりの盆踊り大会やふれあい祭りそして三代交流事業など様々な協議会活動にたくさんの方々に参加いただきとても充実した1年となりました。

これからもたくさんの方々のご参加をお待ちしています。(広報委員会)

山野地域づくり協議会の役員(ボランティア)を募集します

山野地域づくり協議会の役員の任期満了に伴い、令和7年4月からの新しい役員(任期2年)を次のとおり募集します。

- 募集する役員
  - ①会長1名 ②副会長2名 ③文化・スポーツ交流部長1名
  - ④健康福祉部長1名 ⑤地域活性化部長1名
  - ⑥防災・安全部長1名
- 応募資格 山野地区に住所を有する方
- 募集期限 令和7年1月31日(金)
- 応募方法等は別途山野地域づくり協議会のホームページでお知らせします。 <http://yamano-kc.7104.info>